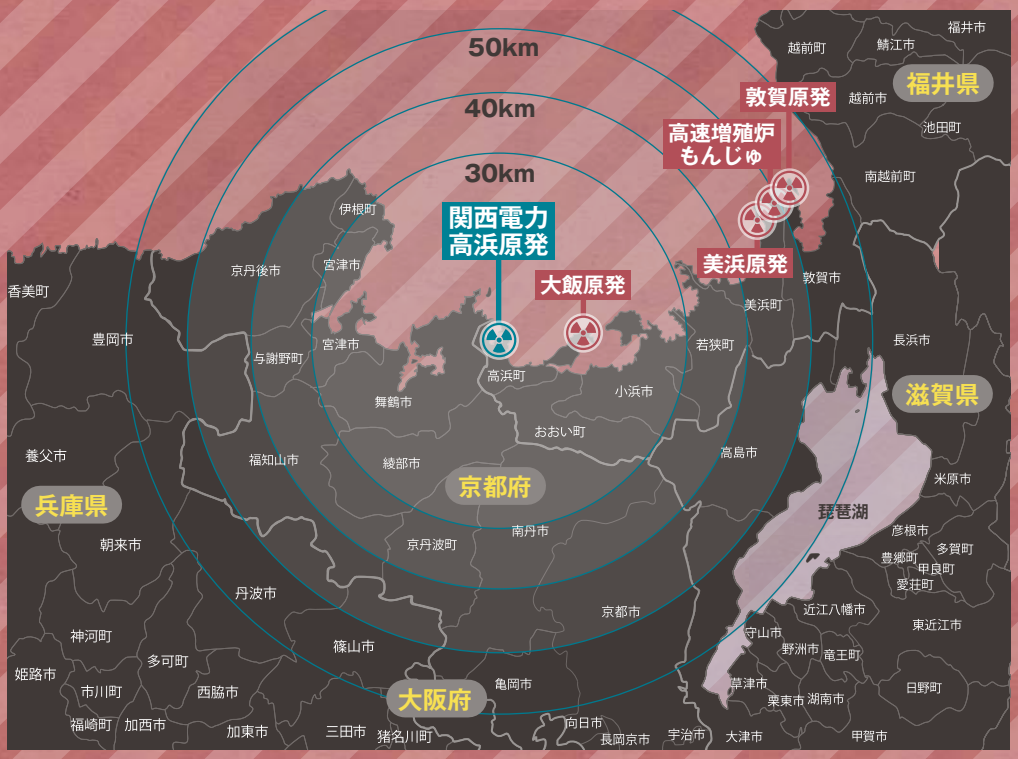
近くの自治体の同意必須

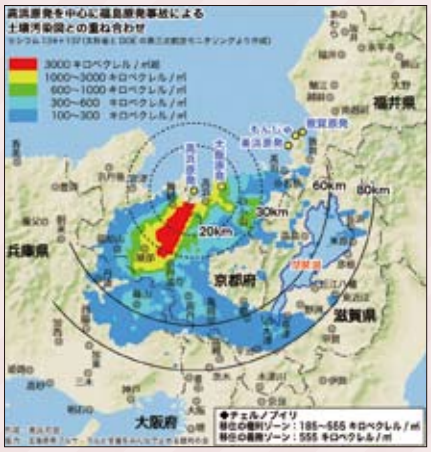
住民の命を大切にするなら、30㎞圏内自治体の合意は必須です

原発の再稼働は「地元の同意」が必要とされています。福井県西川知事は「住民説明会はやらない」「地元同意は福井県と高浜町で良い」と述べています。また、関西電力もこれに同調しています。しかし、30㎞圏内には、福井県（1市3町：高浜町・おおい町・小浜市・若狭町）の住民約54,000人と、京都府北部（4市2町：舞鶴市・綾部市・京丹波町・南丹市・宮津市・伊根町）の住民約126,000人も含まれていません。大飯原発3・4号機運転差止請求で福井地裁判決は「250㎞圏内に居住する者は、原発の運転によって直接的にその人格権が侵害される具体的な危険があると認められる」と判断したことから、30㎞でも足りないとされています。30㎞圏内の住民の避難先である兵庫県全市町では、同県が実施したシミュレーションで高い被ばく予測も出ています。さらに、原発事故で関西の水瓶である琵琶湖が汚染されれば滋賀県だけでなく、関西1,450万人の飲み水に被害が及ぶのです。30㎞圏内はもとより、これらの周辺自治体の住民の安全を軽視することは許されません。京都府知事と滋賀県知事も、再稼働の同意権を求めています。

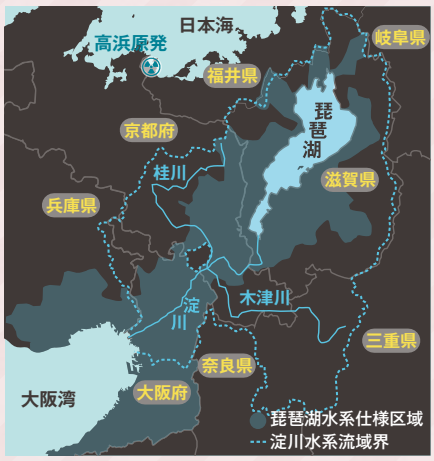
原発集中立地の同時多発事故リスク

高浜原発から20㎞圏内に関西電力の大飯原発があり、50㎞圏内に美浜原発、その外には高速増殖炉もんじゅ、日本原子力発電の敦賀原発があり、核燃料がある限り地震や津波で同時多発事故の危険性が一目瞭然。原子力規制委員会の田中俊一委員長は「広域的な影響の前に事故を収束できるので、集中立地のリスクを検討する必要はない」と述べましたが、高浜原発が事故を起こして近づけないとき、近隣原発の核燃料を安全に収束できるのでしょうか。





関西1,450万人の水瓶汚染



避難できずに被ばくする

30㎞圏内で暮らす福井県1市3町の住民約54,000人の90%が、30㎞圏外に避難するまでに最長11時間10分もかかるとされており、その間に被ばくする可能性があります。また、避難時に最大20,000台の自家用車で移動した場合、大渋滞を引き起こすと想定されています。原子力規制委員会の再稼働審査には、避難計画がきちんと実行できるかは含まれていません。自治体まかせで、本気で住民のことを考えているようにはみえません。

避難路は一本道

音海（おとみ）半島と原発へのルートは県道149号だけの一本道。寸断されれば原発の先に住む音海地区の民家は孤立し、物資の供給や事故対応は不可能となります。海岸沿いの道は土砂災害警戒区域があり、崩落や津波の危険性も高いです。にもかかわらず、代替えの避難ルートは検討されていません。

まだまだある高浜原発の危険性

プルサーマル運転の危険性

関西電力は、高浜3・4号機について、プルトニウムを混ぜたMOX燃料を使うプルサーマル運転を行おうとしています。●MOX燃料は、品質が不安定で、ウランよりも溶融点が低く、燃料が溶け出す恐れがあります。●ウラン燃料より放射能レベルが高く、重大事故による汚染範囲は4倍になるとも。●使用済みMOX燃料は再処理できず、超長期間、核のゴミになります。●しかし、原子力規制委は、ウランと同等であるとしてきちんと審査していません。

基準地震動の算定が甘い

基準地震動を620ガル、津波の高さを6.2mとしていますが、福島第一原発事故では675ガル、津波は最大で15.5mだったことを考えると、さらなる想定が必要です。

福島第一原発事故に学ぶのであれば
問題の多い高浜原発は再稼働すべきではありません!